

人間福祉学科 介護支援コース 介護実習プログラムの内容と特色

介護基礎実習Ⅰ(1年次春休み:90時間)

[実習の目的・ねらい]

基礎実習では、様々な生活場面における多様な人間の暮らし方に接することで、人間や生活の個性とそれを継続させる個別ケアの意義を理解する。個別ケア実践の基礎的な方法を習得するために、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、基礎的な介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として介護福祉士の役割について理解する学習とする。

また、専門職業人としての自己形成のスタートとして、様々な実践から自己を客観的に振り返り、課題と目標をもって学習する姿勢を身につける。

[実習全体の内容の概要]

施設実習

[実習終了時の達成課題(到達目標)]

目標: 尊厳ある介護の基本的実践能力を養う

- ① なじみある環境でその人らしい生活を支援するための人間と人間生活の理解
- ② 他者に共感し、相手の立場に立って考える姿勢を見につけ、多様な年代や立場の人との信頼関係を形成する。
- ③ 人の尊厳と人権の擁護を基本に捉えた介護を実践する
- ④ 利用者から学ぶ姿勢と学習欲の向上
- ⑤ あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識や技術を習得し、利用者の個々のニーズに応じた生活支援の実践

介護基礎実習Ⅱ(1年次夏休み:45時間)

[実習の目的・ねらい]

基礎実習では、様々な生活の場における多様な人間の暮らし方に接することで、人間や生活の個性とそれを継続させる個別ケアの意義を理解する。個別ケア実践の基礎的な方法を習得するために、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、基礎的な介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

また、専門職業人としての自己形成のスタートとして、様々な実践から自己を客観的に振り返り、課題と目標をもって学習する姿勢を身につける。

[実習の内容の概要]

地域実習(訪問介護、通所介護、認知症対応型介護)

[実習終了時の達成課題(到達目標)]

目標: 尊厳ある介護の基本的実践能力を養う

- ① なじみある環境でその人らしい生活を支援するための人間と人間生活理解

- ② 他者に共感し、相手の立場に立って考える姿勢を身につけ、多様な年代や立場の人との信頼関係を形成する。
- ③ 人の尊厳と人権の擁護を基本的に捉えた介護を実践する。
- ④ 利用者から学ぶ姿勢と学習欲の向上
- ⑤ あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識や技術を習得し、利用者の個々のニーズに応じた生活支援の実践

介護過程実習(2年次春休み:135時間)

[実習の目的・ねらい]

重度の生活障害を有する障がい者、または高齢者の施設を実習施設とし、障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な使い方について、介護過程を展開する中で学ぶ。日常生活に関する介護実践能力を高めると共に、福祉機器の知識と活用能力を身につける。協働する職種との業務の重なりと違いについて理解を深め、独自の判断で行ってはならない医行為とそうではない行為について確認し、医療・保健分野との連携方法についても学ぶ。

また、学生には、実習を通じて生涯にわたり専門性を深めていくための基礎的能力を育成していく必要がある。そのためにも利用者との相互理解を深め、人間的な関係を通して、その人の生活について多面的に理解し、エビデンスに基づいて介護支援の在り方を考察する姿勢を身につける。

[実習全体の内容の概要]

- 1、施設実習
- 2、担当ケースを1例持ち介護過程の展開

[実習修了時の達成課題(到達目標)]

目標: 尊厳ある介護の基本的実践能力を養う

介護福祉の計画的な展開能力を養う

- ① 介護実践の根拠を理解し、介護福祉ニーズを思考した基本技術の実践
- ② 利用者(他者)に共感し、相手の立場に立って考え、一人ひとりの生活している状態を的確に把握
- ③ なじみある環境において、潜在能力を引き出し活用、発揮させる、利用者本位のサービス計画の立案、実践、評価の展開
- ④ 多種職協働チームアプローチの理解と実践(他分野の関係者とのコミュニケーション)

介護総合実習(3年次夏休み:180時間)

[実習の目的・ねらい]

利用者が最良のケアを受けることが出来るように、資源を最大限に活用すると共に、サービス提供をする施設内部でのチーム体制をとり、チームの意義を理解してチームワークを実践する能力を養う。そのために、施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に、個別の介護過程の展開、記録方法、リスクマネジメントについても学ぶ。また、特に複雑な問題を持つ人(ターミナル期等)の支援においても医療関係者との連携、協働の中で学び、さらに家族の支援についても考える機会を得る。

総合実習では、今までの実習のまとめとして、チームの一員として介護福祉を遂行できるような現任準備教育を行う場とする。夜勤介護プログラムの導入を行い、24時間の生活の様子への理解が深まるようにし、地域と施設ケアへの総合的理解と介護福祉の専門性を考察できるようにする。

また、学生には、実習を通じて生涯にわたり専門性を深めていくための基礎的能力を育成していく必要がある。そのためにも利用者との相互理解を深め、人間的な関係を通して問題解決を図る研究的な態度を養う。学生が介護実践を客観的に捉え、研究的活動を通じて自分の見解を持つことが重要であり、介護福祉の発展への追及を社会的責務として自覚する姿勢を身につける。

[実習全体の内容の概要]

1、施設実習

2、担当ケースを1例以上担当し、介護福祉実践を重ね専門性を深めるための支援展開(事例研究)

[実習修了時の達成課題(到達目標)]

目標: 尊厳ある介護の基本的実践能力を養う

介護福祉の計画的な展開能力を養う

ケア環境とチーム体制を築き、介護福祉実践を重ねる過程で専門性を深める方法を習得する

- ① チームでの協働、連携専門性を深める方法(研究＝問題解決の過程)の習得
- ② 専門性を深める方法(研究＝問題解決の過程)の習得
- ③ 複雑なニーズを持つ人のトータルな生活支援の実践(組織の運営や他分野の人と協働、連携しリスクマネジメントやターミナルへの参画)